

『1年ぶりに思い返すこと』

34期 花房 麻緒

7月末、約1年ぶりに部活の練習を覗きに行きました。留学中でしばらく顔を出すことができません。38期〜40期の体制を見るのは初めてだったので、感じたのは「日本に帰ってきたな」ということ。久しぶりに見るASTへの懐かしさに、そしてその懐かしさをまだ感じられる自分に嬉しさを覚えました。

卒業直後は後輩を見て先輩方のお話から、自分が現役時代いかに弱かったかを思い知り辛くなつたこともありました。私たちが3年だったころは泳ぎのレベルは最弱と言われていた時代で、16校での成績も振るわず。精神面・行動も幼かったと痛感しました。

今の部活も私たちの時代とは速さのレベルは遥かに高く、練習内容含めシステムもところどころ違います。それでもこの夏、現役を見て「懐かしいな」と思えることを嬉しく思いました。根つこの、ASTで得た大事な部分は4年前の私も同じものを持つていられたんだ、と確認することができたからです。

あの頃の私たちはちっぽけでした。一人一人の力は小さく、心も弱く、今思い返せば恥ずかしくなるようなことで悩んだり、泣いたり。でも、ちっぽけなりに、本当に一生懸命でした。AST時代をじっくり振り返るのは照れるけれど、どうか、その時子供なり

に真剣だった自分たちのことを忘れないでいてあげたい。引退・卒業後の部活への関わり方は人それぞれでしたが、同期にはこの40周年を期に、あの頃が私たちにとってどのようなものだったか、ちよつと思ひ出してみてあげてほしいなと思います。小恥ずかしし、「馬鹿だったな」と笑ってしまうようなこともあるかもしれないけれど、そんな昔の自分が得たのはかけがいのないものともう一度向き合ってみてほしいです。

今の現役にもこれからの後輩にも、ASTの中でいろいろな経験をしてほしいと思います。真面目で辛い練習からも、馬鹿

なことをする息抜きからも、高校生の今精一杯やるからこそ得られるものがあるはずだと信じています。

最後に、40周年おめでとうございませう！ASTと、ASTに
関わる全ての方々の方々の更なるご発展をお祈り申し上げます。